

経済倶楽部便り

◆東京◆ 3月の講演会では学習院大学経済学部
の鈴木亘教授のコロナ禍での医療崩壊に関する講演が数々のエビデンスを提示して説得力がある内容でした。病院のベッド数世界一と言われる日本で、メディアで盛んにコロナ患者の収容能力の限界が指摘された理由は何か。7つの原因を上げて説明されましたが、結論は5月号の本文をご覧ください。ただ、解決策に至る道筋として鈴木氏は国や各自自治体が作成している詳細な災害計画を具体的な行動に落とし込む訓練が不可欠だと話されています。

1月の新会員をご紹介します。レーサム部長

の中西務様、フォーラムインターナショナル副社長の小川裕様です。

5月の講師は「インサイドライン」編集長の歳川隆雄氏、ロシア・ユーラシア政治経済ビジネス研究所長の隈部兼作氏、中央大学総合政策学部教授の庄司克宏氏、BNPパリバ証券チーフエコノミストの河野龍太郎氏を予定しています。

◆中部◆ 3月はロシアの安全保障問題研究家の小泉悠氏の講演が時機を得たものになりました。同氏によるとロシア軍の規模は現在ソ連崩壊時の5分の1程度。しかも戦争の仕方に杜撰な印象があり、政治優先が明白だと指摘されました。5月の講師はジャーナリストの中岡望氏、みずほ銀行チーフマーケットエコノミストの唐鎌大輔氏を予定しています。

(日暮良一)